

第一回違法伐採総合対策推進協議会証明方法検討部会の 議事概要について

1 日 時 平成18年6月19日(月) 13:30~16:30

2 場 所 永田町ビル会議室(東京都千代田区)

3 議事概要

(1) 証明方法検討部会の運営について

事務局から部会の運営について説明が行われ、部会設置要領が了承されました。

(2) 違法伐採総合対策推進事業の取り組みについて

事務局から第一回違法伐採総合対策推進協議会(5月23日)の開催結果および合法性木材供給事業者認定制度の整備状況等について説明が行われました。

(3) ガイドラインとこれに関して寄せられた意見等について

林野庁からガイドラインとこれに関して寄せられた意見等について説明が行われました。

(4) 証明方法のあり方(ガイドライン)の検討について

証明方法のあり方について意見交換が行われ、違法伐採対策を力を合わせて、具体的にどのようにするかについて議論が行われました。

主に以下のような意見等が出されました。

- 木材は循環型社会の構築に貢献するものであり、適切なものを積極的に使用すべき。
- 今は、この制度(取組)の定着に全力をあげて取り組むべき時。
- 合法性の確認については、調達側が合法性を後から確認できるように、伐採地まで把握できるようなトレーサビリティを確保すべき。
- 森林認証制度においても原産地までトレースできるような仕組みとはなっていない。伐採地までたどれるようにするためには、相当のコストがかかり、高価格の牛肉と低価格であり長大な木材を同じように扱うことは難しい。
- 団体認定方式は、その仕組みと取組状況(認定事業者名等)が公表され、必要な検査も行われるようになっている。産地については、認定工場まで出向き、書類をチェックすることなどにより、ある程度、検証することは可能。
- 産地にかかわらず合法性の証明された木材をグループとして分別管理し、その木材のみを原料として供給することで合法性の証明の目的は達成できる。現行の証明方法を堅持すべき。
- 問題のあるのは海外の製品。これをどうチェックするのがポイント。
- 日本と違法伐採が問題になっている国とは状況が大きく異なり、これを区別して考えるべき。国内では合法木材を生産しているが、それがきちんと証明できていないと海外に示しがつかないので、こうした取組を進めているのだと認識すべき。
- 木材は他の資材と競合しており、証明システムは、極力、コストがかからず、簡素な事務手続きとすべき。

- 証明方法は、ワーキンググループ（WG）で調査・検証を徹底的にやってもらい、その結果を踏まえよりよいものを検討すべき。
- 証明方法は、わが国の産業活動に大きく影響する。貿易相手国もあることであり、慎重な議論が必要。3カ年かけて本格的に検討すべき。
- 合法性については、伐採時だけでなく、加工・運搬・貿易の各段階で関係法規が遵守されていることも加えるべき。
- 木材産地国の合法性の証明制度については、ガイドラインに照らして、当該証明システムがこれを満足しているかどうかをチェックすべき。
- 持続可能性の定義については、具体的な判断指針を持つべきであり、森林認証なら何でもいいとすべきでない。
- 持続可能性の定義は非常に難しい。合法性をどのように担保するかが重要な課題であり、合法性に絞って議論をしてほしい。
- 内外無差別であるが、外国のことはよくわからない。調査事業、検証事業においては、違法伐採が大きな問題となっている熱帯林諸国やロシアなどからの輸入材を中心に徹底的に調査、検証を行うべき。
- 地方自治体や一般企業にも同様の動きが広がれば制度の普及定着が進み、違法伐採の抑制効果も高くなる。このことから、合法木材の積極的な利用を促進させるための優遇措置も必要。
- 違法伐採対策のためには、需要側が合法木材をきちんと使ってくれるということがその成否を左右する。これをどうするかについても議論すべき。
- 調達サイドが取り組むべきこと、気をつけることが沢山あり、これをガイドラインとして示すべき。
- 違法伐採対策をやる上で、違法伐採と関係ない材まで使われなくなるようなことにならないようにする必要。基本的に木材需要を拡大する方向で考えるべき。
- 木材貿易市場で日本の影響力は低下している。違法伐採をなくすためには、日本が買わないということだけでは済まない状況にあることに留意すべき。

以上の議論を経て、今後、以下のように進めることとなりました。

- ① ガイドラインの証明方法については、別途設けられている WG の調査・検証の結果等を踏まえ議論する。
- ② このため、本検討部会の議論を調査・検証WGの議論に反映させる。
- ③ 次回の本検討部会はこれらの結果を踏まえた上で年明けに開催する。